

特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する支援の推進事業 取組の概要

団体名：八王子市

研究概要

市立学校に在籍する特定分野に特異な才能のある児童生徒を対象に、隔週土曜日に、学校と連携して才能の伸長を支援する生涯学習活動として講座を設ける。協力校及び近隣校で募集を行い、申し込みをした児童生徒、保護者との面談等を行い、各児童生徒の才能を把握する。保護者、在籍校の教員、支援する大学教員等と作成した個々の指導計画を基に、大学教授等から指導を受けることを通して、一人一人がもつ能力を育成。活動前後の児童生徒の変容等の分析評価を行い、事業の実施効果を検証する。

令和5年度取組 ※詳細については別添資料参照

令和5年度はプログラミングの分野に関して特異な才能を有する児童生徒の支援を実施。6月に推薦及び応募形式で参加者を募集し、参加児童生徒を決定。7月から12月にかけて隔週土曜日に講座を開設。全10回の中で、プログラミング学習とコミュニケーションスキル向上のための講座を実施した。プログラミングについては市内にキャンパスを有する東京工科大学の教授陣に、コミュニケーションスキル講座については、東京八王子中央ライオンズクラブの方に講師を務めていただく。プログラミングの講座を実施していく中で序盤に出てきた、参加児童生徒からの「ゲームを作りたい」という要望を組み取り、最終回までに各児童生徒がそれぞれのゲームを構築。最終回で発表を行った。

参加児童生徒の中には、学校では座って話を聞くことが困難であったり、他児童生徒とのコミュニケーションに困難のある児童生徒が含まれていたが、全10回の講座を通して、そういった児童生徒も含めて傾聴する姿勢の向上、挙手して発言するなどの授業（講座）に対する積極的姿勢をみとることができた。また、保護者からも感謝の言葉をいただくなど、満足度の高い支援事業となった。

令和6年度取組

※詳細については別添資料参照

プログラミング領域に加え、コンピュータグラフィック（美術）領域にも領域を広げ、芸術の分野に才能を有する児童生徒の才能を発揮する場、居場所の提供を行う。ライオンズクラブによるコミュニケーションスキル向上のための講座については両領域において引き続き取り組む。

4～6月：参加児童生徒の
募集

7～12月：活動・検証

1月：成果検証

特定分野に特異な才能のある児童生徒への 支援の推進事業

【八王子市】



1 令和5年度（2023年度）の取組

【研究概要】

八王子市立学校に在籍する特定分野に特異な才能のある児童生徒を対象に、休日の土曜日に、学校と連携してこの才能の伸長を支援する生涯学習活動として講座を設け、協力校及び近隣校で募集する。申し込みをした児童生徒、保護者との面談や作成した作品等の確認を通して、得意分野や隠れた能力を把握する。把握した得意分野や能力を伸ばすため、一人一人に応じた指導計画を保護者、在籍校の教員、支援する大学教員等と作成する。指導計画を基に、大学教授等から指導を受けることを通して、一人一人がもつ能力を育成するとともに、活動前後の児童生徒の成長や作品等の分析評価を行い、事業の実施効果を検証する。

6・7月 児童生徒の募集

7～12月 講座の実施（全10回）

各月2回（隔週土曜日）、2時間/回

1 令和5年度（2023年度）の取組

【拠点校】

八王子市立いずみの森義務教育学校

【所属校】

八王子市立第一小学校、八王子市立第三小学校、
いずみの森義務教育学校、八王子市立第五中学校

【参加児童生徒】

小学校・義務教育学校（前期課程）	5年生4名	} 計8名
	6年生2名	
中学校・義務教育学校（後期課程）	1年生1名	
	7年生1名	

※ 内、特別支援教室で指導を受けている児童生徒

小学校・義務教育学校（前期課程）2名 ※1名は不登校

中学校 1名

1 令和5年度（2023年度）の取組

令和5年度の活動

回	日時	場所	内容
1	7月29日（土） 午後1時半から3時半まで	いずみの森義務教育学校 （地域コミュニティスペース）	・開講式 ・プログラミング学習
2	8月5日（土） 午前10時から正午まで	いずみの森義務教育学校 （地域コミュニティスペース）	・プログラミング学習
3	9月2日（土） 午前10時から正午まで	いずみの森義務教育学校 （図書室）	・プログラミング学習
4	9月23日（土） 午前10時から正午まで	東京工科大学 八王子キャンパス （片柳研究所棟 KE201教室）	・プログラミング学習
5	10月14日（土） 午前10時から正午まで	いずみの森義務教育学校 （地域コミュニティスペース）	・プログラミング学習
6	10月21日（土） 午前10時から正午まで	東京工科大学 八王子キャンパス （片柳研究所棟 KE201教室）	・コミュニケーションスキル学習
7	11月11日（土） 午前10時から正午まで	東京工科大学 八王子キャンパス （研究所棟 A706教室）	・プログラミング学習 ・コミュニケーションスキル学習
8	11月25日（土） 午前10時から正午まで	東京工科大学 八王子キャンパス （片柳研究所棟 KE304教室）	・プログラミング学習
9	12月9日（土） 午前10時から正午まで	いずみの森義務教育学校 （地域コミュニティスペース）	・プログラミング学習
10	12月16日（土） 午前10時から正午まで	いずみの森義務教育学校 （地域コミュニティスペース）	・プログラミング学習 ・コミュニケーションスキル学習 ・閉講式

1 令和5年度（2023年度）の取組

【運営指導会議】

構成員 増田 謙太郎（東京学芸大学教職大学院准教授）
岩崎 盛司（東京八王子中央ライオンズクラブ）
鎌田 正純（大学コンソーシアム八王子 事務局 主査）
菅原 慎逸（八王子市教育委員会 支援・相談担当専門職）
北川 大樹（八王子市教育委員会 統括指導主事）

会議日程

回	日時	場所	内容
1	10月3日（火） 午後6時から7時まで	オンライン	・基本情報 ・研究課題 ・今後の予定
2	12月13日（水） 午前10時から11時まで	オンライン	・第1回の意見を踏まえた取り組みとその様子
3	2月15日（木） 午後6時から7時まで	オンライン	・令和5年度の取り組みの成果 ・取り組みを通じて見えた課題 ・令和6年度の実施計画

1 令和5年度（2023年度）の取組

【研究課題】

研究領域2

g 特異な才能のある児童生徒に支援を提供するための学校外の機関の在り方や、その機関と連携して学習を行う際の学習状況の把握や学習評価の在り方

1 令和5年度（2023年度）の取組

【学校外の機関】

東京工科大学（コンピュータサイエンス学部）

東京八王子中央ライオンズクラブ ※ライオンズクエスト
（特定非営利法人青少年育成支援フォーラム）

【学郊外の機関の在り方】

東京工科大学 → ・児童生徒の特性等を把握・共有
・高度なプログラミング指導と評価

東京八王子中央 → ・児童生徒の特性等を把握・共有
ライオンズクラブ ・コミュニケーションスキル体験
※ライオンズクエスト ・会場誘導と見守り

1 令和5年度（2023年度）の取組

【学習状況の把握と学習評価の在り方（フレームワーク）】

○第1回の学習会で、児童生徒一人一人のプログラミングレベルを把握するための演習課題を実施。

※ 演習内容：大学1年生で履修程度のプログラミング



共通学習内容の設定

※ 東京工科大学、八王子市教育委員会、東京中央ライオンズクラブ



課題に取り組む姿、学習目標到達の状況
コミュニケーションの状況などを把握し評価する。

児童生徒一人一人が課題に取り組む姿や学習目標到達の状況、コミュニケーションの状況など、特異な才能の伸長、成長の様子、プロセスなどを中心に評価する。

※ 東京工科大学、八王子市教育委員会、東京中央ライオンズクラブ

1 令和5年度（2023年度）の取組

【研究課題】

研究領域2

h 才能と障害を併せ有する児童生徒への対応

1 令和5年度（2023年度）の取組

【対応プロセス】

1. 広域（拠点校と近隣校）に募集案内を配布
↓
2. 申し込みされた児童生徒の保護者とオンラインで面談実施
⇒面談では、事業の主旨と指導の中で特に配慮して欲しいことや特性、特異な才能等について聞き取りを実施。
※ 聞き取り内容の共有について保護者に許可を得る。
↓
3. 面談の記録を「学びと成長の記録」に記載する。
↓
4. 東京工科大学教授等、教育委員会事務局、ライオンズクラブと児童生徒の特性や配慮事項等を共有して指導方法等を検討。
↓
5. 学習指導の中で、児童生徒の状況を把握。
サポートする大学生や指導する教授等との相性を確認。

1 令和5年度（2023年度）の取組

募集！ 分野：プログラミング

子どもの未来を創造性豊かにする広域活動

「子どもの未来を創造性豊かにする広域活動」って？

特定の分野に突出した才能をもつ子どもが、大学教授など、その分野の専門家から指導・助言を受けることを通して、豊かな創造性を自由に発揮してその才能を伸ばすことができるようにする活動です。そして、その才能を社会で生かせるようにするために、コミュニケーションスキルの育成など、一人ひとりの特性に応じたプログラムを用意しています。この活動は、文部科学省の「特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業」に採択されています。得意な分野で、才能を思いっきり伸ばしてみませんか？

募集について

参加費無料

1 募集分野 プログラミング

2 活動目標

- (1) プログラミングの分野に才能をもつ児童・生徒が、その才能を生かし、ゲームやアプリケーションを開発できる力を身に付ける。
- (2) 才能を有する児童・生徒が、社会で生きていくためのコミュニケーションスキルを身に付ける。

3 活動内容

- (1) 東京工科大学の大学教授等により、プログラミング言語による高度なプログラミングの知識・技術の習得のための指導を受け、目的に応じたアプリケーションを開発する。
- (2) 東京八王子中央ライオンズクラブが提供する、ライオンズクエストプログラム（タイプスキル教育）により、コミュニケーションスキルを獲得する。

4 活動場所 八王子市立いずみの森義務教育学校（八王子市安町2-18-1）

5 活動期間 令和5年(2023年)7月から令和5年(2023年)12月まで（全11回予定）

6 活動日 月2回、土曜日（確定した日程は、受審決定後にお知らせします。）

7 募集人員 10名程度（希望者多数の場合は選考となります。）

8 応募条件

- (1) 第一小学校、第三小学校、第四小学校、第五中学校、第六中学校、高尾山学園、いずみの森義務教育学校に在籍する小学校5年生から中学校3年生（義務教育学校5年生から9年生）の児童・生徒
- (2) プログラミングの分野に才能をもち、上記3の活動に意欲的に取り組める児童・生徒
※特別支援学級や特別支援教室に入籍している児童・生徒も対象です。

9 応募方法・選考の流れ

- (1) 右下の応募フォーム（QRコード）にアクセスし、必要事項を記入して送信してください。
- (2) 教育委員会事務局において応募内容を審査し、結果をメールにてお伝えします。
- (3) 一次審査を通過した児童・生徒は、面接を行います。（日時は個別に調整します。）

応募締切 令和5年(2023年)7月14日(金)



八王子市教育委員会

【問い合わせ先】

（事業に関すること）生涯学習スポーツ部生涯学習政策課 042-620-7333

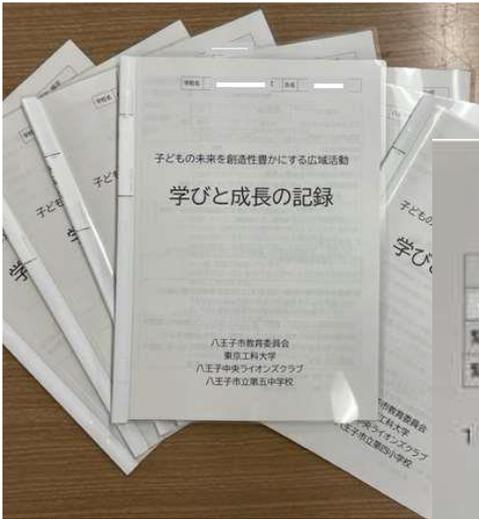
（応募に関すること）学校教育部教育指導課（中島、山崎）042-620-7412

応募用フォーム



- 募集については学校が特異な才能が見られる児童生徒保護者に募集リーフレットを直接配布していただくよう依頼した。
- その他、拠点校及び近隣校で広く募集リーフレットを配布していただき募集を行った。

1 令和5年度（2023年度）の取組



「学びと成長の記録」

面談を通じて得られた児童生徒の特性や配慮事項を記録し、カルテとして活用。講座の進行に必要な事項として講師陣と共有した。

保護者の方が記入

事前確認内容

所属校名	学年学級	氏名
_____ 学校	_____	_____
緊急連絡先(母親)	_____	_____
緊急連絡先(父親)	_____	_____

1 特異な才能のある分野と実績
【実績の記入例】：令和3年度 U-16 プログラミングコンテスト優勝
プログラミング
 これまでの実績や
大会等には出場したことはない。
 状況など

2 現在できること
【記入例】：プログラミングの言葉を使ってプログラミングができる。
 Scratch でプログラミングの楽しさに目覚めた。ローマ字入力や英語などを自分で調べ、scratch 以外にも HTML や Java などのコードも読める。今は Unity に興味をもっている。

3 指導の中で、特に配慮して欲しいこと(特別な支援が必要な場合)
【記入例】：ゆっくり説明していただくと理解ができます。
 集中できる時間が短いため、休憩を適宜入れてください。
 同年代の子とも話すのが苦手。発表や感想を話したり、書いたりすること、強要されることが苦手。気持ちの切り替えが苦手で、家庭ではグミなどを食べて気分転換をしている。
 視力が裸眼で 0.3 であり、見やすい座席になるよう配慮が必要。

八王子市教育委員会が記入

4 保護者や児童・生徒との面談の内容

面談日	令和5年 7月26日(水) 午後7時30分
面談場所	オンライン(Microsoft Teams)
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急連絡先の優先順位は、母親、次に父親で連絡を取る。 ・パソコンは大好きで、長時間でも取組んでいる。 ・コミュニケーションスキルについて、保護者として身に付けさせたいと考えている。 ・現在特別支援教室で指導を受けている。同年代の子とも話すのが苦手。発表や感想を話したり、書いたりすることは、強要されることが苦手なので、書く活動や発表については種々な配慮が必要。以前、臨海セミナーのマインクラブのプログラミング教室に通っていたが、発表がありため、出席が遠のいていった。気持ちの切り替えが苦手で、家庭ではグミなどを食べて気分転換をしている。 ・視力が裸眼で 0.3 であり、見やすい座席になるよう配慮が必要。 ・当日は学校と同様に徒歩で通う。初回は保護者が同伴して、授業の様子を見学する。気付いたことがあれば遠慮なく教育委員会事務局に相談していただけるよう、保護者にお伝えしている。

担当(総務指導主事) _____
 担当(指導主事) _____

1 令和5年度（2023年度）の取組



開講式（いずみの森義務教育学校）

1 令和5年度（2023年度）の取組



講座の様子（いずみの森義務教育学校）

1 令和5年度（2023年度）の取組



講座の様子（東京工科大学八王子キャンパス）

1 令和5年度（2023年度）の取組

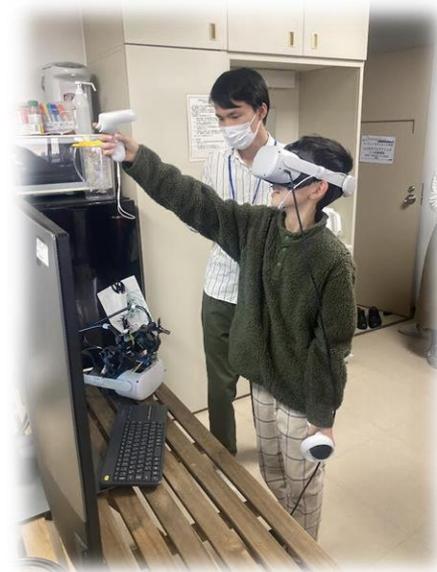
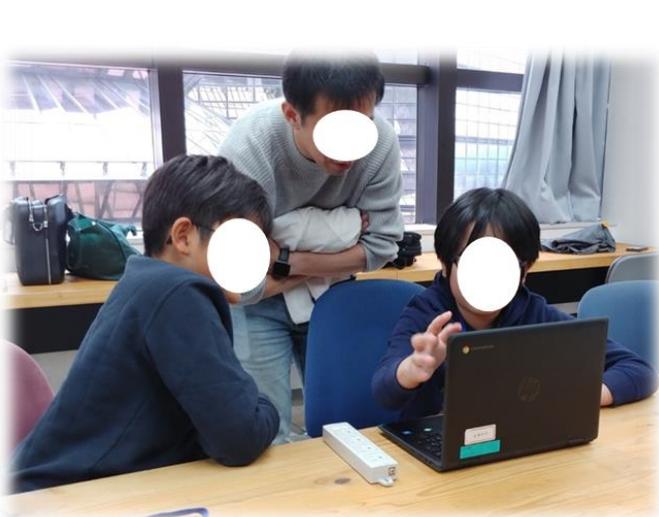
ライオンズクエスト

子どもたちが他者と協働し、集団の中で力を発揮するための取組としてコミュニケーション・スキル学習を実施。



青少年育成支援フォーラム講師により話の聞き方や、自分の気持ちや考えを伝える方法について学習。参加者にはコミュニケーションが苦手な子も含まれるが、周囲の受容的で温かい関わりの中で、少しずつ心を開いていく様子が見られた。

1 令和5年度（2023年度）の取組



大学施設も講座会場として利用する中で、先進的な研究を見学し、児童生徒の視野を広げる機会も得られた。また、コミュニケーションを苦手としていた児童にも、周囲と関わる場面が少しずつ増え、自分でプログラミングしたゲームを他の子たちに紹介したり、周囲と笑顔で話をしたりする場面も見られた。

特異な才能を有する児童・生徒に対し、学校と地域の様々な主体が連携することにより多様な学習の場や居場所を実現できたことは、令和5年度の成果と捉えている。

1 令和5年度（2023年度）の取組

児童・生徒の成長の様子

【参加児童Aについて】

自らOSを制作するなどプログラミングの技能は非常に高く、他の受講者と比べても群を抜いている半面、コミュニケーションに大きな課題を抱えている。周囲とうまく関わることができず、不登校になった。かつてプログラミング教室に通っていたものの、環境に馴染むことができずに短期間で退会している。



技能や意欲の高まり

東京工科大学の先生方からの専門的な指導により、プログラミングの技能が向上した。また、ライオンズクエストにより、他者と関わる場面も増えた。写真は、先生の質問に対して挙手をして発言している場面。様々な技能や意欲に高まりが見られた。



多様な学習の場や居場所づくり

全10回の活動のうち、自らの意思で9回に参加。学校に通う、通わないに関わらず、人や社会とつながり、自分が誰かに認められた存在であると実感できる経験をし、居場所をもつことができた。本事業がそのような役割の一部を担うことができた。

【児童Aの保護者の感想】

今回の趣旨であるプログラミングとコミュニケーションという2本立ての学習は、本人にとって興味のあることと苦手なことの組み合わせとなりまして、学習を進める上で非常に貴重な機会となりました。不登校が続いている中で小集団での学習参加は、始まるまでは不安を感じていましたが、教師の方や関係者の方々の細やかなサポートにより、毎回、楽しく学ぶことができ、最後まで通い続けることができました。

拙いながらも積極的にコミュニケーションを図る姿は今まで見受けられなかった新たな一面でした。

1 令和5年度（2023年度）の取組

児童・生徒の成長の様子

○児童Bについて(在籍校教員の感想より)

- ・友だちに自分から積極的に関わることが増え、関係を築いている。
- ・困ったことがあると、担任に相談に行くことが増えた。
- ・自分が作ったゲームを友だちに見せながら、楽しそうに会話している様子が見られた。
- ・苦手とする運動についても、粘り強く取り組む姿が見られるようになった。
- ・掃除の時間も、時間いっぱい取り組むようになった。

○児童Bについて(保護者の感想より)

学校ではなかなか評価されにくいプログラミングという分野での活動を評価していただく機会に大変感謝しております。

多様性が求められる時代に個性を伸ばしていく取組はとても大切で、大学の講師や学生などから指導を受けることにより、大学という場所を知り身近に感じる事ができたと思います。

1 令和5年度（2023年度）の取組

取組を通じて見えた課題

○特異な才能を有するとまでは言い切れない児童・生徒が一部参加していた

⇒ 課題1 募集方法の工夫の必要性

○受講者の関心がスクラッチを使用したゲーム作りに集中していた

⇒ 課題2 受講者の興味・関心や発想を広げる取組の必要性

○受講者が同じ内容を一律の進度で学習する場面が多かった

⇒ 課題3 「個別最適な学び」を実現する取組の必要性

2 令和6年度（2024年度）の実施計画

時期	活動内容
●募集期 (4月～6月) 	○募集人数 10名程度 ○募集方法 ①市立小・中・義務教育学校長に向け事業概要を説明し、プログラミング領域及びコンピューターグラフィック(美術)領域において特異な才能を有する(有する可能性のある)児童・生徒を推薦していただく。 ②令和5年度の受講者及び※東京工科大学近隣の小・中学校を対象に募集をかける。 (小学校):片倉台小・由井第二小・高嶺小・中山小・由木西小・七国小・みなみ野君田小・みなみ野小中 (中学校):由井中・中山中・七國中・みなみ野小中
●活動前期 (7月～8月) 	○第1回 ・東京工科大学の先生方に、プログラミング領域及びコンピューターグラフィック領域において、どのような研究が行われているかを幅広く紹介してもらい、受講者が主体的に取り組むきっかけづくりを行うとともに、取り組みたい内容についての発想を広げる。 ・ライオンズクエストを通して、コミュニケーションスキル等を磨き、受講者と東京工科大学の先生やアシスタントの学生、その他関係者との人間関係づくりを行う。 ○第2回～第3回 ・東京工科大学の先生やアシスタントの学生の指導・助言を受け、企画書を作成する。
●活動中期 (8月～11月) 	○第4回～第10回 ・東京工科大学の先生やATの学生の指導・助言を受け、受講者各自が企画書の内容を更新し、成果物を作成する。 ・ライオンズクエストでコミュニケーションスキル等を発展的に身に付ける。
●活動後期 (12月) 	○第11回～第12回 ・成果発表会を行い、各自が作成した成果物について発表する。 ・1年間の学習を振り返りを行う。

2 令和6年度（2024年度）の実施計画

令和5年度（2023年度）の取組を踏まえての 主な変更・修正点

- ・東京工科大学の協力を得て、プログラミング領域に加え、コンピューターグラフィック（美術）領域の講座を新たに開設する。
- ・令和5年度（2024年度）に参加した生徒のうち、希望する者の継続参加を認めるとともに、新規に参加する児童生徒について、応募方式から学校からの推薦方式に変更する。（想定定員に満たない場合は応募を実施する）。
- ・コミュニケーション学習を活動前期に前倒しし、児童生徒と大学の先生やアシスタントの学生、その他地域の大人たちとの関係構築を図る。
- ・児童生徒が自ら作成する成果物の企画書作成について活動中期に前倒しし、講師・アシスタントが把握することで、児童生徒の個別最適な学びをより支援できる内容とする。